平成２４年度第２回江東区外部評価委員会（第３班）

１　日　　時　　平成２４年７月１２日（木）

午後６時５８分　開会　　午後８時５５分　閉会

２　場　　所　　江東区役所７階第７３会議室

３　出 席 者

(1) 委　　員

木　村　　乃	山　本　かの子
梅　村　小百合	田　中　真　司

(2) 事務局出席者

政 策 経 営 部 長	寺　内　博　英
企　画　課　長	長　島　英　明
計画推進担当課長	奥　村　健　治
財　政　課　長	武　田　正　孝

(3) 施策14関係職員

地域振興部長	鈴　木　信　幸
地域振興部経済課長	武　越　信　昭
地域振興部経済課融資相談係長	斎　藤　省　三
地域振興部経済課産業振興係長	淡　路　一　昭
地域振興部経済課商業振興係長	大　隅　和　義

(4) 施策21関係職員

地域振興部長	鈴　木　信　幸
地域振興部文化観光課長	小　林　秀　樹
地域振興部（仮称）江東区観光協会設立準備担当課長	菊　間　　惠
地域振興部文化観光課観光推進係長	臺　　俊　夫
地域振興部文化観光課観光推進担当係長	岩　崎　裕　之

４　傍 聴 者 数　　０名

５　会議次第

１．開会

２．施策14「区内中小企業の育成」ヒアリング

３．施策21「地域資源を活用した観光振興」ヒアリング

４．その他

５．閉会

６　配付資料

・席次表

・委員名簿

・関係職員名簿

・外部評価委員会の運営について

・施策評価シート（施策14、21）

・行政評価（二次評価）結果への取り組み状況説明シート（施策14、21）

・外部評価シート（施策14、21）

午後６時５８分　開会

○班長　定刻にはなっておりませんけれども、おそろいですので、第２回の江東区外部評価委員会、第３班のヒアリング、１回目ということで開会をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。傍聴の方はいらっしゃらないようですので、このまま進めてまいりましょう。今回は対象施策が施策14「区内中小企業の育成」、それから21「地域資源を活用した観光振興」の２つになっております。

はじめに、お手元の資料の確認をお願いします。机上に配付されております会議次第に配付資料の一覧がありまして、席次表、関係職員名簿、２枚ずつ、それから委員名簿、外部評価委員会の運営について、これは第１回の委員会で案として出されていたものを、きょうは「案」が取れているということで、後ほど事務局のほうからご説明があるということです。それから、施策評価シートと取り組み状況説明シートが14番と21番、それから記入用の外部評価シートが２枚、以上です。お手元、各委員の皆さんございますでしょうか。それでは、事務局のほうから外部評価委員会の運営についてのご説明をお願いします。

○事務局　ただいま班長さんのほうからおっしゃっていただいた部分と重複いたしますが、前段のヒアリングの際に案として出されていたものを、「案」を取った形で正式に決定したということで提出させていただいております。内容的には変更ございませんので、ご参考にということで、よろしくお願いします。以上でございます。

○木村委員　ありがとうございます。

それでは、自己紹介ということですので、第３班の委員名簿の順で、お名前だけで結構ですので、おっしゃっていただければと思います。

じゃ、私が一番上に書いてありますので、第３班の班長ということで、進行させていただきます木村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○山本委員　山本です。よろしくお願いいたします。

○梅村委員　梅村です。よろしくお願いいたします。

○田中委員　田中真司と申します。よろしくお願いいたします。

○班長　それでは、出席職員の皆さんの自己紹介をお願いいたします。

○地域振興部長　地域振興部長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

○経済課長　経済課長の武越と申します。よろしくお願いします。

○融資相談係長　融資相談係長の斎藤と申します。よろしくお願いします。

○産業振興係長　産業振興係長の淡路と申します。よろしくお願いいたします。

○商業振興係長　商業振興係長の大隈と申します。よろしくお願いいたします。

○班長　それでは、初めに施策14番「区内中小企業の育成」の現状と課題及び今後の方向性についてご説明をいただきまして、その後質疑というふうにしていきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

○関係職員　それでは、私から説明させていただきます。まず現状でございますけれども、区内事業所数、これは昭和56年に２万3,991カ所、それがピークでございまして、平成18年には１万8,681ということで減少を続けてきました。ただ、直近の21年度ですけれども、経済センサスによりますと若干の盛り返しがありまして、21年は２万294ということで、５年間で大体1,600増加をしているということがございます。東京23区での比較で申し上げますと、本区、事業所数につきましては、23区中、多いほうから数えて15番目、それから従業員数は同じく８番目となっていまして、本区におきましては従業員300人以上の大規模企業の区内進出もありますけれども、中小企業におきましても南部地域で、情報通信業とかサービス業を中心に一定の数が増加しているというふうに分析をしております。

また、江東区内、93.3％のところが20人未満の事業所であります。区内の製造業につきましては、この10年間で約1,000の事業所が移転または廃業をしているということで、この中には、残念なんですけれども、伝統技術を保持しておられた事業所も含まれているというふうに見ています。

これらの要因ですけれども、大企業におきましては海外発注をしている、あるいは安価な海外製品が流通している、また、若者の製造業離れとか後継者不足が考えられます。また、製造業に限らず、依然として東日本大震災の影響も多く事業所の経営に及んでいると考えております。

次に、課題でございますけれども、現在、各中小企業におきましては、ＩＴ化あるいは技術革新がなかなか進まないような状況でありまして、経営力とか競争力、技術力の弱体化が懸念されるというところでございます。また、後継者不足あるいは人材不足によりまして、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、事業の継続が困難になるところがあるということで、その中で、創業とか、あるいは新事業の展開、新製品の開発などの支援が一層求められているということは我々課題として認識しているところでございます。

今後の方向性ですけれども、区内の中小企業がすぐれた経営力あるいは競争力、技術力を備えていくための方策としましては、まずは制度融資の充実、それからＩＴ化などによる情報発信、あるいは地域中小企業のネットワークの強化、それから新技術開発、特許や

環境認証取得への支援等々、個々の具体的な事業について充実強化を図っていくことが重要です。また、後継者とか技術者育成の対策ですけれども、地場産業のＰＲ、それから、職人の方、あるいは企業と大学とのコラボレーションなど、これまでもずっとやってまいりました事業をさらに積極的に実施していくということとあわせて、若年者の就労対策も兼ねて、中小企業に優秀な人材確保を支援します中小企業雇用維持若年就労支援事業、こういったものを充実を図っていきたいと考えています。また、創業につきましては、好評をいただいています創業セミナー、それから融資相談の充実によりまして区内の事業環境を整え、支援を続けていきたいと考えています。

いずれにしましても、区といたしましては、今後とも社会経済情勢に応じていろいろな事業の見直しを、これは当然のことなんですけれども、タイムリーな施策を展開していくことで区内中小企業の育成あるいは活性化を支援していきたいと考えております。

私からは以上です。よろしくお願いします。

○班長　ありがとうございます。それでは、各委員のほうから質疑応答を順次進めていきたいと思います。どうぞ。

○委員　ご説明ありがとうございました。こちらの区内の中小企業の育成の施策の中で、目指す姿と実現するための取り組みの中の経営力・競争力の強化の中で、産学公連携を活性化させますと結構前面に押し出しているので、前面に押し出していることから、指標の中に、実際に大学と中小企業が連携して行われている事業数というのを１つ指標として取り込んでもいいのかなというふうに個人的に思いました。

それとあと、施策に影響を及ぼす環境の変化の中で、ご説明いただいた、南部で情報通信とかサービス業が増加しているということは、これは明るい展望だと思うので、この中で、今後５年間の予測の中で結構ネガティブな要因が並んでいるのかなと思っていて、確かに今、現状厳しいと思うんですけれども、少しポジティブな要因を加えてもいいのかなと思いました。

○班長　いかがでしょうか。

○関係職員　南部のほうのお話で、豊洲だとか東雲だとかそういうところでは情報通信の関係だとかそういうのが伸びているということなんですけれども、区のほうとしては、江東区はもともとものづくりというような製造業なんかを中心に活性化させていきたいという思いもございまして、通信業やサービス業だけではなく、やはりものづくりのほうをこれから重点的に支援していかないと、この指標でもありますけれども、どんどん事業所数

が落ちていっている状況ですので、その辺を何とかしたいということでさらに取り組みをしたいと考えます。

○班長　暗いことについてはどうですか。

○関係職員　ネガティブに書いているというようなことですけれども、確かに情報関係で、今創業支援はやっているんですけれども、創業支援については、結構情報関係の企業さんとか、創業したいという方が増えておりますので、どんどん区内に企業を誘致して、それで活性化が図れれば、それはそれでいいのかなと考えています。

○班長　どうぞ、引き続き質問してください。

○委員　情報処理を中心とした大企業との連携の強化によってものづくりの支援をするということなんですけれども、今後、この予測が暗い中で具体的な事業とか何か考えていることがあれば教えてください。

○関係職員　まず、事業の展開としては、ものづくりについては、新製品ですとか新商品の開発ということで、そういったものに対しての助成金などを補助しています。それとあとＩＴの関係については、そういったホームページですとか、あるいはそういったＩＴ企業に情報を発信するようなものについて、できるだけ製造業の方がそういうふうに発信しやすいように、それに対しての支援、その辺の助成金というのも行っています。今後はそれが、ＩＴなり、あと海外進出がうまく手助けできるような形で中小企業を支援していきたいと考えています。

○委員　海外進出を支援するとなると、区からいなくなっちゃうわけですよね。それでいいんですか。

○関係職員　海外発注といいますか、そういうような。

○委員　発注。なるほど。あくまでも、事業所を移転んするじゃなくて、何か発注するという面は。

○関係職員　何か新しい展開がないとやはり活性化しませんので。

○委員　なるほど、わかりました。ありがとうございます。

○委員　発注でなくて受注。

○関係職員　すみません、受注です。

○班長　よろしいですか。

○委員　はい、大丈夫です。

○班長　では、どうぞ。

○委員　私のほうからは、震災の影響もありまして、こちらの冊子を拝見しますと、ＢＣＰ策定に係る費用などを補助しますと書いてありますが、補助件数５件とありますが、何件ぐらい実際にこれはありましたでしょうか。

○関係職員　申しわけないんですけれども、０件でございます。

○委員　それはなぜ０なのですか。

○関係職員　今回、ＢＣＰの助成金に当たっては、防災関係をコーディネートするような人を派遣するんです。その分の委託部分について助成をするというんですけれども、やはり中小企業さんはそこまでの、委託をしてまでというよりも、もうちょっと、規模が小さいので、もっと生身のというんですか、手づくりでやるような形のほうの支援のほうがよろしいようで、そこまで、コンサルを頼んでまでのＢＣＰ作成というものは考えていないというようなことで、ちょっとその辺はご意見を聞いているところです。

○委員　例えばそれはＢＣＰを、費用を補助するということが各企業さんにあまり知られていないというようなことはあり得ますか。

○関係職員　それもあります。その周知のほうもこちらのほうでまだ十分でなかったのかなと考えています。

○委員　同じくこちらの４ページに展示会への出展費用という補助がありますけれども、そこの展示会の出展費用を補助された団体、あるいは産業交流展へ出された企業というのは何社ぐらいかというのは、データはお持ちですか。

○関係職員　22年度でいきますと51件でございます。展示会等の出展助成で51件です。

○委員　それは主に産業交流展のほうということなんですか。

○関係職員　それだけじゃないです。

○関係職員　ビッグサイトその他、国内外含めてということです。産業交流展のほうはまた産業交流展のほうのブースを10ブース確保しまして、それはまた別に。

○委員　区で。

○関係職員　そうです。出展こま料は全部うちのほうで確保してという形のは別の事業でやっております。

○関係職員　今の51件は全部展示会、いろんなところの展示会で、ビッグサイトだけということではございませんので。

○委員　ちなみにそのご出展をされた方からの効果測定みたいなものもフォローとしてはされていらっしゃいますか。例えばどこかから見積もりの要求があったとか、具体的にそ

の展示会でお客さんとの商談が成立したとかというところまではされていないですか。

○関係職員　そこまではしていないです。

○関係職員　終わった後、実績報告書に基づいて金額を報告するんですが、その中に商談件数何件というような形で書いていただくところがありますので、それで把握は若干しております。

○委員　この件についてちょっと提案なんですけれども、産業交流展は恐らく出展料が５万円ぐらいだと思うんです、経験上。

○関係職員　そうです。５万2,500円です。

○委員　ところが、ほかの展示会の場合は30万とか40万とかで、実質補助が15万円ですと半分にも行かない。予算厳しい中ですけれども、例えばもう少し上乗せをされるのも一つかなという提案を差し上げたいのと、産業交流展が悪いとは申し上げませんが、なかなか中小企業の皆様だけの集まりって、ほかの展示会のほうが出展の効果があるんじゃないかなと思いますので、その辺も含めてもう少し、15を例えば30ぐらいとかというふうにされてもいいのかなとは思います。

あともう一つはＩＴ化についてですけれども、ホームページの作成の補助ということなんですけれども、高齢化が進んでいますので、実際に経営者の方含めて、中小企業の方がパソコンなどに触れるというのはなかなか、拒否反応もあるのかなということもありますので、もう一歩何か踏み込んだ施策があるといいなと。それは人を派遣するのがいいのかちょっとわかりませんけれども、何かその辺を考えていただければなと。ちょっと意見とさせていただきます。

○関係職員　今のＩＴ化の関係については、今亀戸の商工情報センターで、パソコン教室という形で、中小企業さん相手に、ホームページのつくり方ですとか、あるいは経営に使うようなソフトの操作とか、そういうのは無料でやっているところでございます。ただ、なかなかそれに参加する、こちらのＰＲもあるのかもしれないんですけれども、なかなかそういうのがないということです。

あと、展示の部分とホームページの部分については、ご指摘のように、やはり、かなりの販路拡大につながりますので、この辺は充実していきたいなとは考えている、さらに充実したいなという考えはあります。

○委員　ＩＴ化を実際に取り組む中で、得られた結果ってありますか。

○関係職員　今まで自前でつくっていたホームページとかというのはあると思うんです、

企業さんで。それがもうちょっと専門的な、そこから例えば発注したりだとか何とか、そういうようなことでの少し中身の変化というのはあるんですけれども、それによってのどれだけ効果が……。

○委員　売り上げという、それは難しいと思いますけれども。

○関係職員　売り上げという部分ではちょっと検証していないので。申しわけございません。

○関係職員　あと、パソコン教室に通われた商店の方からお聞きしたんですが、受けたおかげで自分でメニューをきれいにつくったりすることができるようになったというような声は聞いているんですが、その後の効果というのまではちょっと……。

○委員　そうですか。長期的に見ていかないと多分ＩＴというのは効果が見えてこないとは私も思います。

○委員　今お出しいただいたケースは、ＩＴというよりＯＡですよね。インフォメーションのテクノロジーの話じゃないですよね。手で書くよりきれいに書けたというような話だから、オフィスオートメーションの話ですね。

○委員　ちょっと基本的なところ。これはどこに置いてあるものなんですか。

○関係職員　中小企業のうちのほうで団体登録していただいている企業さんに送っているのと、あと区役所に置いております。

○委員　団体登録できるぐらいの人だとか区役所に来ることを知っているとかという人たちにはこの情報は行くけれども、それこそ従業員が何人かしかいなくて、汗水たらしてずっと働いているような小さいところはどうですか。

○関係職員　企業さんごとで登録してもらっているので、従業員数は特に関係ありません。

○委員　小さい企業だと、ひょっとしたらそういう情報をどこでもらったらいいんだみたいなレベルのところがあるかもしれないなという気もしましたけれども。

○関係職員　小さいところも行っていますよね。

○関係職員　そうですね。全部は網羅していませんけれども。

○委員　本当に必要なところに行っているのかなということが１つと、それから、K-NETとかって、パソコンをちょっと開かせてもらったんですけれども、リンク少ないし、この情報でやりましたというのはあるんだけれども、これをやることによってこういう効果がありますよみたいな宣伝とかコマーシャルとかってちょっと見なかったんですよね。

すみません、２年前も同じところを私させていただいていて、同じことを申し上げて、

同じような答弁だったりするんですけれども、パソコン教室、参加者少ないという話もしていたにもかかわらず、どのような工夫をされたのかなということをちょっとお聞かせいただければなということと、あと、リンク数が本当に少なくて、そこに行って、そこでぽつんと終わっちゃって、また新しいページを開かなければいけない状況なので、もうちょっと交流ということを図るのであれば何か工夫があってもいいのではないかなと思うんですが、その辺どのようにお考えでしょうか。

○関係職員　パソコン教室については、ちょっと時間帯をずらしたりだとかで参加しやすい日程にしてはいたんですけれども、やはりなかなか効果が出てこなかった状況です。

○委員　要望とか聞いています？

○関係職員　要望は一応聞いております。

○委員　それこそそういうのに参加せざるを得ないとか。

○関係職員　というような感じではないです。

○委員　出ざるを得ない、出たほうがいいよという人たちは、わからないんですよ、多分。そういうＩＴというか機械、コンピューターを使ったら、パソコン使ったらとかネットを使ったらもうちょっと広がるよということがわからない企業さんが多いじゃないですか。

○関係職員　はい。

○委員　その方々がまず問題なのかなという気がしますけれども。

○関係職員　パソコン教室というのに限らないで、それ以外のセミナー等もあるんですけれども、そういう中で機械を使った経営戦略みたいな、そういったセミナーもやっているところで、そんなに人が来ない状況です。

○委員　セミナーの広告はどういうふうに出していますか。

○関係職員　区報等で。

○委員　区報ですよね。やっぱり意思があって見ないとだめなわけですよね。

○関係職員　そうですね、黙って入ってくるわけではないですよね。あとはK-NETで広報しているというようなところです。

○委員　そういうところで、必要な人にというか、必要であろうと思われる人ですよね。あろうと思われる人に情報を提供するという工夫がないと、多分、情報を出していますよと言ってもそれを受けとめられない、受けとめる余裕もないというのがあるかもしれないなという気がします。だから、後継者育成とかという文字はあるんですけれども、具体的に後継者育成だとか、それから伝統工芸、どういうものがあるのかちょっとあれですけれ

ども、ピックアップして集中的に手当てをしようとかというふうなことがないと、多分漠然として受け身の、やっている、糸を垂れて、食いつくのを待っているだけの状況になってしまうと、せっかくやっているものがもったいないかなという気がしないでもないです。

何やるにしても、多分それをやるにしても何するにしても税金を使っているわけで、有効に、本当に必要な人たちが見えるようなものにしないといけないのかなと思うんです。１回セミナーやるのに結構かかるんじゃないですか。無料ですよね、セミナーとか。

○関係職員　参加していただくのは無料でやっています。講師料はこちらで払うような形になりますので。

○委員　講師料を払って、会場の手当てとかしているじゃないですか。あと、懇親会なんかもつきますよね。懇親会何百円なんかあれですけれども、資料代500円から1,000円ぐらいでそういうセミナーをやっていらっしゃるんだけれども、参加者がどれくらいで、それの効果がどうかというのは多分なさっていないですよね、やっているだけで。

○関係職員　はい。

○委員　その辺のところをどう考えるのかなという気がしますけれども。

○委員　どうお考えですか。

○委員　随分、いつも言っているんですけれども、また国会答弁みたいによくわからない、何か煙に巻かれたようだと報告書書けないんですよ。批判するわけじゃなくて、わからないので伺っているので。専門じゃないので、すみません。

○関係職員　セミナーについては、アンケート等をとっているんですけれども、確かに来ている人については、それはいいというような形で、うちの　経営相談員さんも使ったりとかしてやっているんです、講師の方を。そういう形でやっているんですけれども。あとは、創業にしても、女性のための創業セミナーだとかそういう形で、そういった機運的には盛り上げることはできるんですけれども、ただ、おっしゃられるように、周知、まずそこに来てもらうための仕掛けというのは確かに難しいです。

○委員　要するに来る人がいっぱいで、あぶれたとかは。

○関係職員　ないです。

○委員　ないですよね。

○関係職員　ただ、女性のための創業セミナーに関しては電話で、すぐに締め切り、先着順ですぐに埋まってしまうというような状況で、そういう部分はいいのかなと思うんです。

○委員　それはうかがい知れましたよ。最初の説明で、好評をいただいております創業支

援セミナーで、そこだけちゃんと修飾語ついていましたもの。本音のところを言っていただいて構わないんですけれどもね。

○関係職員　ただ、それ以外のといいますか、一般的な経営戦略セミナー等々につきましては、広く周知されて、それによって来るというような、そういうような周知の仕方はしていませんので……。

○関係職員　どんな分野でも多分そうだと思うんですけれども、いわゆるアウトリーチしないとなかなか来ないというのは多分おっしゃるとおりだと思うんです。ただ、先ほどのＩＴ化もそうですけれども、なかなかそこまで受け取り方の体制が整っていない部分もあって。だから、どういうふうにそういうニーズをうちのほうで積極的につかんでいくのかというのは多分課題となってくるのかなと考えます。

○委員　ニーズというか、わからないんだと思うんですよ、小さい企業の人たちって。基本的なところだと思うんです。どうすればいいかというか、特に多分小さいところって、後継者がいないのもあるし、どんどん情報から遅れていったりとか、あと、老舗とかという地道にやっていらっしゃる方々というのは新しいことに挑戦していくのって結構時間かかる場合もあるじゃないですか。だから、こうやればいいんだというのを自分たちからではなくて外の情報を持っていかないと、多分ニーズも何もないんだと思います。そういう余裕もない企業って結構ありますよね、今。だから、本来ならばそういうところに手を差し伸べていったほうがいいような感じでないですか。セミナーに来る力があったり、それから大きい企業というのはやっぱりよそから情報を得ているわけで、区がわざわざ手当てしなくても、多分自分たちの力でやっていけるので、そういう気がするんですけれども。多分その体制が変わらないと。

アウトリーチという前に、何かもうちょっと違う方法で、入り込んでいきながら考えるとかということをしないと救えない、きっと優秀なとか、すてきな技が日々なくなっていく状況があるのだと思うので、もったいないですよね。下町のそういうふうな何か地道にやってきた人たちが次に行けないというか、あきらめざるを得ない状況になってしまうのはすごくもったいないのかなと思うので。そこが全然変わっていないなと思います。大きい組織なので変わりづらいというのはありますよね。行政って変わりづらいし、組織大きくなると動きにくくなりますし、予算というのがあるから。ただ、ちょっと発想を変えないと。

２年前の文言と本当に変わっていないんですよ。この書かれている文章が、実は。参考

にして書かれるので当然だと思いますし、枠もありますし制限もあるので。ただ、恐らく２年前も同じようなことを話したような気がするんですよね、流れの中で。なので、せっかくこういうことをやるのであれば、これも時間使ってお金使ってやるので、もう少し違う発想転換みたいなものがあってもいいのかなというような気がしています。すみません。

○関係職員　ありがとうございます。

○委員　じゃ、私ですが、施策が目指す江東区の姿というところに、多分３つ大事な要素が入っていて、大事な要素というか、何を目指しているのかというのが３つ入っていて、１つは後継者・技術者が確保されているということ、２つ目は区内の産業が活性化しているということ、３つ目が新旧の異業種の共存共栄が実現しているということ、この３つだと思うんですけれども、それぞれこの３つについて現状どのように評価されていますか。

○関係職員　まず後継者と技術者が確保されという、この部分についてですけれども、残念ながらといいますか、現状としてはなかなかそれがうまくいっていないのかなというような評価をしています。ただ、リ・デザインだとかで、後継者に地場産業に興味を持ってもらうような仕掛けというのはしているつもりですし、あとは、人材確保という点では、去年から始めた若年者を中小企業の就職に結びつけるというような事業を新たに展開して、これである程度の、30名で小さいんですけれども、中小企業さんに区民が就職したという、そういう実績を残すことができましたので、そういった角度からもやっていきたいなと思っています。現状ではまだなかなか思うように進んでいないというような状況でございます。

○委員　今ご説明の中で、30名、小さいんですけれどもとおっしゃったんですが、それが小さいか大きいかの価値判断は私にできないので、小さいんですか。何に対して小さいんでしょう。大きいと胸張るんだったらどのぐらいのサイズなんでしょう。

○関係職員　100名とかそういう感じならいいと思っています。僕の感覚ですけれども。すみません。

○委員　100名ぐらいだったらいい感じ。いかがですか。

○関係職員　中小企業の企業側がどの程度要求されてきているのかということによるんだと思うんです。だから。実際に成立したというのはどれぐらい。

○関係職員　率としては、40名受け入れて30名です。ただ、募集自体は、手を挙げたのは80名ぐらいいるんですけれども。

○関係職員　なかなかミスマッチでまとまらない部分があると思うんですけれども、恐ら

く企業側がこういう人が欲しいというのは、もう少し数は多分多いんだと思うんです。それが必ずしも就職に結びついていないという意味では、まだまださらに数は増やしていかなければいけないような事業だとは思っていますけれども。

○委員　今の数字聞くと、何かミスマッチというより、母数が少ないだけのような気がするんですけれども。マッチ率は高いんじゃないですか。

○関係職員　そうかもしれません。区民でやって、なおかつ区内の業者だけというような、そういう限定でやっているので、確かにその母数自体は多くはないのかなとは。

○委員　このマッチ率がほかにも同じように生きるんだとすれば、母数を増やせばよいマリアージュができてくるという可能性はありますよね。

それで、私はいつもすべてについてこれこだわるんですけれども、施策が目指す江東区の姿、その後に実現するための取り組みがありまして、文字面だけを読むと、文字面が大事だという前提でやるのでそういう質問の仕方になるんですけれども、文字面だけ読むと、わりかしそこを勇ましい展望を持っているという感じがするんです。共存共栄、活性化、技術者確保となっているでしょう。

正直なところ、もともと地域振興部経済課さんとかは、そんなふうに施策は言っているけれども、とにかく死なせないと、没落させないと、それを安定化させるのが手いっぱいという状況なので、施策としてはこう言っているけれども、実態としてはそういう成長的な志向で仕事をできる状況にないんだとか、いやいや、厳しいながらも飽くなくそのことを追求しているんだとか、スタンスとしてはいかがですか。

○関係職員　当然、まずはつぶさないというのが一番根幹になければいけないと思います。だから、それが具体的にはどんな事業でやっているかといえば、まさしく制度融資の話になってきますので、それは大前提の話です。ただ、それが、ただそういった形だけでいけば当然じり貧になっていく可能性が大きいから、そこで新しい展開をやっていくということだと思います。少なくともベースは、まずつぶさない、できるだけ長く区内で仕事を続けていっていただきたい、それがベースになっていますので、そういう点では制度融資の充実というのは根幹なところだと思います。そこからさらにどう展開していくかというのはこれからの課題です。

○委員　正直人数も限られているわけだし、精いっぱいお仕事されていらっしゃると私は思っていますけれども、手を抜くということではなく、やはりつぶさないということのためにケアしなければいけないことというのはたくさんあって、それがゆえに成長志向で力

強く手を打っていくところになかなか手が回らないとか、そういったような実態というのはありますか。

○関係職員　　あります。

○委員　　何かそんな気がするんです。今、委員が、変わっていないなと、２年前というお話。変わっていないこと自体は悪いことじゃないと思うんです。変わっていないには変わっていないの理由があって、変わりようがない、つまりルーチンの業務とかメンテナンス業務とか安定化業務は毎年同じようにやっていくから変わらないんです。変わる部分って、成長志向でやっていく部分があったら、そこは変わらなければおかしいんですけれども、変わらないということは、どうもやっぱり業務の大半が、制度融資を中心とするルーチンというか、あるいはスキルアップみたいな講座でも、非常に入門編部分だけをずっとルーチンで続けざるを得ないとか、例えばフェイスブックでこうやってやろうみたいな価値創造的なところまではなかなか手がつけられないとか、そういったような事情がおありなのかなと推測するんですけれども、どうですか。

○関係職員　　基本的にはやっぱり維持という形でやっているのは事実なんですけれども、ただ、今フェイスブックですとかいろんなそういった新しい手法で競争力をつけるという仕掛けというのは、こちらのほうでもいろいろと新しいのはやっているつもりでございます。ただ、そこになかなか。

○委員　　わかりました。じゃ、最後１個、商工会議所江東支部ありますよね。

○関係職員　　はい。

○委員　　区で、地域振興部経済課さんでさまざまな商工振興策をお打ちでいらっしゃる。東京商工会議所江東支部もいろいろ恐らくおやりになっていらっしゃるんじゃないかなと推測しますし、区で財団とか外郭団体で、商工振興の外郭団体ってあるんですか。

○関係職員　　区ではありません。前に中小企業公社ありましたけれども、廃止しました。

○委員　　そうですか。そうすると、気になっているのは、例えば中小企業ネットワークアドバイザー事業ってご存じですか。関東経産局の事業ですけれども。

○関係職員　　すみません。

○委員　　先ほどアウトリーチというお話しされましたけれども、アウトリーチするのにものすごく使える事業があるんです。これは、例えば信金さんとか信組もそうですし、地銀、都銀を問わずなんですけれども、地域の支援機関という位置づけになっていて、その支援機関からの要請に応じて経産局が専門家を派遣してくれるという事業があるんです。無料

です。経産局が全部お金を負担します。中小機構もバックアップしているので、非常に個別にアウトリーチできるんです。それも、お客さんから要望があればというだけじゃなくて、地域巡回型で、御用聞きに回ったりすることもできるんです。なので、何か区の経済課としての施策を一生懸命やられることのやはり限界が、特に経済政策については多くて、東商さんとか中小機構だとか経産局だとか、そういったところの施策とあわせて展開するということが必要かなと思ったんですけれども、その辺の情報の整理とか、そういったところも取り込んだ上での区民の事業者さんに対する情報提供とかというのはどのくらいどういうふうに行われているんでしょうか。

○関係職員　商工会議所のほうとの連携しながらやっているところはあります。あとは、東京都の中小企業公社があると思うんですけれども、そちらのほうとの情報もよく交換しています。確かに今言った経産局のほうの、そちらは、ちょっといろんな仕組みがあるので、なかなか私ども連携し切れていないというのが状況でございます。

○委員　ぜひそういったところを充実させることで、実際に皆さん方だけでは手が回らない部分をカバーできるかなと。区民ベースで言えば、だれが提供してくれようとサービスだったらサービスなので。ですものね。

○関係職員　そうですね。

○委員　最後と言ったんだけれども、１個だけ。ＩＴ、他の委員もご質問されていましたけれども、ＩＴ化しないと負けるよという問題意識を強く持っていらっしゃるならば、ものすごく変な言い方しますよ。他意はないですからよろしくお願いします。しなければだめだったら、そこがＩＴ講習受けていなければ制度融資だって受けさせないよというような態度をとるべきじゃないですか。そんな努力もしないでつなぎ融資だけ、制度融資を求めてくるのは甘えているよと。徹底的に区が提供している講習を受けて自分たちのスキルアップをするぐらいの努力をして制度融資を使えというぐらいのスタンスでないと、今おっしゃったように、受けないんじゃないですか、だれも。結局受けたいと思う気持ちを待っているだけじゃスキルアップできないですよね、きっと。これ受講者増えないし、目標値は23万になるのか。これ、多いんですか、数として。多いか少ないかわからない数字をどう評価していいかわからなくて。ということなんです。そういうスタンスって無理なんですか。だめだと、受けなきゃ。何やっているんだよ、受けなければ落ちていくよとおどかしてでも受けさせて、制度融資の前提条件にすると。例えば、マル経融資ってご存じでしょう。マル経融資って、商工会議所の相談を１週間だか１カ月だかにわたって受けたと

いう実績がないと受けられないでしょう。そういう前提ついているでしょう。

○関係職員　　はい。

○委員　　そういうのって皆さんの提供されている制度融資の条件にないんですか。

○関係職員　　創業の融資でしたら、創業相談をうちのほうで受けてからという、そういうような前提条件はあります。

○委員　　ＩＴって基本でしょう。

○関係職員　　なんですけれども、なかなかその制度融資のところにそれを入れてしまうとやはりちょっと利用が。

○委員　　制度融資の利用が阻害される。

○関係職員　　はい。

○委員　　でもそれで、つなぎ融資でやったってＩＴがなければ落ちていくよというのが基本的な考え方としておありなんでしょう。そうすると、こう言っちゃ何ですけれども、極めて延命的なつなぎ融資で公共財源が使われているという解釈になりません？　言い過ぎですか。言い過ぎを承知で言っていますけれども。

○関係職員　　実際、中小、零細、どちらかと言うと零細が多くて、１人従業員、個人事業主とかってかなり多いものですから、そういったところでＩＴというのもまた非常に難しいかなというところはあると思うんですけれども。

○委員　　これはやや押し問答を……。皆さんもご参加ください。押し問答を前提に言うと、１人事業者でＩＴ扱うのは難しいといって、一体どうやって食べていくつもりなんですかね。ということなんです。制度融資で、利率低くて安く借りられる、あるいは利子補給されるのでほとんど利子もつかないというものでつないでいったところでその人は成長できるんですか、その事業者さん。

○委員　　全くそうなんです。１人だからできないからしようがないよねではだめで、１人で小さいからとか、もう年をとってきてＩＴ難しそうだからというところで、それじゃ何ができるかというふうな発想をして、アウトリーチしないとそれこそ出てこないので、そういう人たちも。今潜んじゃっています。なのでそこをどういうふうに工夫するか。多分そういう人たちがいるということはわかっている、でもそういう調査も多分できていないんじゃないでしょうか。現状がわからないのに施策ってないですよね、きっと。現状をきちっと把握した上で何が必要なのか、何ができるのかという。できない部分もありますから、行政として何ができるのか、行政としてできない場合にはどういう方法があるのかと

いうことを丁寧に考えていかないと地場産業は衰退するし、大切な技術とか技がなくなっていくだろうし、後継者だって、若い人たちが興味を持たないと多分そういう産業って成り立っていかないのかもしれないんですから。親から伝達していくのが途絶えているわけじゃないですか。親子でつなげるのが途絶えているという現状もちゃんとわかっているのであれば、そういうところを町をきちんと歩いてしっかりとリサーチする必要があるんでしょうね、きっと。

○委員　だから多分、３年前、２年前にも同じような話をしたと思うんです。ほかの人たちもおっしゃっていて、話をしていたんですけれどもね。だから、現状みたいなものをちょっと、現場の痛みみたいなのをもう少し行政として理解するような状況をつくらないと。相手もこっちも、多分皆さんも、それから現場で大変だと思っている人たちもそこで何していいかわからない、立ちどまっちゃうだけじゃないですか。打開できない状況をどうするかという。すごく新たな発想。だから、大学の若い人たちと一緒に何かをつくり出すとかというのはすごく新たな発想なんだけれども、そういうことをする気力も元気も意識もないというところの人たちに、１人だからできないんじゃなくて、１人だからやりやすいよというところをちゃんと投げる必要あるんじゃないかなと思うんですけれども。

小動き利くじゃんという。大きい企業だと動けないところで、小さい企業だからできるところってあるじゃないですか。その企業が踏ん張れるだけの融資を、それこそ有効であると考えたら、やっぱり金額５万とか10万とかじゃなくて、もうちょっと融資の額を考えてみるとか、柔軟に動けるような体制みたいなものもひょっとしたらこれから必要になってくるんではないかなという気がするんですけれどもね。もったいないじゃないですか、何か立派な、すてきな技がなくなっていくのは。

○班長　どうぞ。

○委員　こちらのシートの６番の１次評価の欄に、３行目に後継者が不足という表現がありますけれども、足りないというふうにご認識なのか。例えば、この間はやぶさで話題になった大島の清水機械さんみたいな、ああいう高齢者だけでやっているところは、本当に若者が後継者として必要だと思っているのか、いや、給料払えないからいいと思っているのか、その辺の分析をご認識されているのかが１つ。

先ほどの委員の方もありまして、お１人でやられている高齢者の方が確かにＩＴ化というのはなかなか厳しいので、例えば区全体で、区のまとめたホームページの中に、伝統技術継承というものもありますけれども、例えば鉄鋼業だとか、何か木工でもいいと思うん

ですけれども、その分野は、30代、40代でもいいですけれども、さすがに後継者が不足だというふうにご認識ですか。であれば、この分野については、若い人来たれということで、個人でやっている方々が発信するというよりは、区全体で、ハローワークへ行けばいいのかもしれないんですけれども、ハローワークとは違った視点で呼びかけをするというようなこともいいんじゃないかなと思うんですけれども、やはり不足をしているんですか。

○関係職員　伝統工芸の関係については、やはりおっしゃられたように高齢化が進んでいるということで、跡継ぎがいないという、そういう話を聞いております。欲しい欲しくないという話は聞いているわけではないです。

○委員　跡継ぎはいないけれども、じゃどうなのと。就職、学生が欲しいのかというとまたそこはちょっと違う議論になっちゃうんですか。

○関係職員　ただ、その辺のまずは興味を持ってもらわなければいけませんので、そういうことは今やっているところなんですけれども。あとは、中小企業の、ほかのいわゆる企業さんで後継者が不足しているというものについては、一応そういう団体さんを集めるようなそういう協議会をやっています。そういう議論の中でそういう話が出ているような形での認識であります。

○委員　結局、施策が目指す姿に現状においてはやや無理があるのではないかなと。つまり、安定化させていくということは、それはそれで大事だし、いつかチャンスを狙うためにも安定化することは必要です。不況だとか東日本大震災だとかってちょっと、リーマン以降だとか東日本とかという外部環境の悪さを殊さらに書きたくなるという気持ちもわかるし、そういう現状があることも事実でしょうけれども、ということは、短期間ではないけれども、ある意味で緊急事態が続いているという状況認識に立てば、あまり成長志向っぽい目標を掲げることそのものに無理があると。むしろ安定化させていくということに相当のウエートを押さえていて、しかしそれだけやっていてもだめだから、言葉は悪いですけれども、細々とでもできる限り成長志向の施策を組み込んでやると。そこについては、全力を投下はできないけれども、例えばプロジェクトチームがあって、それが月１でも週１でもとにかくその日だけはそのことに全員かかるみたいな、そういう体制をとってやっていますみたいな形がとれてこないかなという気がしますけれどもね。そんなふうに言うとだめですか。夢がなさ過ぎますか。

○関係職員　いや、そんなことはないです。

○委員　施策の目標に対する成果が上がっているとは胸張っては正直言えないですよね。

それは別に皆さんがサボっているからじゃなくて、本質的に中小零細に対する施策ですよね。暗い気持ちになってくる。委員、暗いの嫌いですので、明るくしてもらっていただきたいんですけれども、何か、応援してあげてください。

○委員　地場産業にこだわっているというのはわかるんですけれども、この際、ちょっと話はそれるんですけれども、方向転換ということは考えていないんですか。

○関係職員　方向転換というのは。

○委員　例えば先ほど言った、南部で今情報通信とかサービス業が増加しているということは、地場産業にこだわらず別の産業という、別な方向を向いてみるとか。

○関係職員　ある程度サービス関係というのは結構何とかそれなりに成長していけちゃうというか、区の支援がなくてもいけちゃうという感じがありますので。

○委員　まあそうですよね。どうしてもやはり弱い者を守ってあげる、行政としては守っていきたいというお考えですね。

○関係職員　弱い者といいますか、そういう産業を。

○委員　委員いいことをおっしゃいましたね。聞こうと思っていたこと思い出しました。伝統工芸の発展・継承はなぜしなければいけないんですか、産業政策として。なぜ伝統工芸の発展・継承をしなければいけないんですか。結局そこに対する理解というかそこに対するポリシーがはっきりしていれば何か手は打てると思うんです。何となく伝統工芸って守らなければいけないものっぽいみたいな感じだと手が打てないと思うんです。なぜなんですか。こんな古臭いものとかとは思わないんですか。

○関係職員　江東区の中で培われたものなので、それはやっぱりずっとこれから末永く続けてほしいという、そういう……。

○委員　やっぱりじゃわからないです。

○関係職員　理屈で言うとどうかなというのはありますけれどもね。

○委員　つまり、それが伝わらないと若い人は集まらないです。何か古いもの好きオタクしか集まらないですよ。産業として、仕事として、生業としてこのことにかかわろうという人たちを増やしていこうと思うのなら、なぜこれが必要なのか、なぜこれを江東区として産業の側面でとらえ続けていたいのか。

そこがちらっと見えたのは、右下の表の（２）の菱形の３つ目の２行目の最初のほうに、「現代に通じる作品を制作し、」とあるんです。この作品という言葉で出てきていて、ちょっと違和感を覚えたんです。ここ産業の話ししているんだから、作品じゃなくて製品と

言わなければいけないので。そこを作品というとらえ方しているところにちょっと違和感はあって、産業として伝統工芸をとらえ切れていないんじゃないかなという揚げ足を取りたくなったんです。

○委員　伝統工芸の一例ってこれですか。

○関係職員　これは学生と一緒につくったものです。学生のアイデアと技術の。

○委員　それがやっぱり表紙に、どこかにないとだめなんでしょうね、きっと。「これ何？」になっちゃうので。

○委員　これがわからないし、これもわからないし。

○委員　インパクトがないんです。裏を見て、ああ、これつくられたものなんだと表紙の裏に書いてあったのを見て思ったんですけれども。

○委員　輪島塗ってあるでしょう、塗り物。今アイフォンカバーとか、輪島塗とか爆発的に売れているんです。30代ぐらいの世代から、そんな高いもの持って、落としたらどうするのというようなもの。金箔ついていたりするんです。四、五千円で売っているんです。

○関係職員　安いですね。

○委員　安いでしょう。多分輪島の若手の駆け出しの職人につくらせているんだと思います。

○委員　スマホ使わない世代はつくれない。

○委員　それは製品というとらえ方をしているからきっとできるんです。作品というとらえ方をするとそんなもの恥ずかしくて出せないんです。

○委員　だから、残ってきたものってやっぱり何かあるんでしょうね、きっと。理屈ではなくて、何か日本人の情緒的なものってあるじゃないですか。何かその情緒とか感情に訴えられるだけの熱意ってまた必要なのかもしれない。だから残したいみたいなのがあって、それを前面に、それこそ表に出せるとか、そういう考え方があってもいいのかもしれない。「それは理屈じゃないんだ、残さなきゃいけないんだよ」みたいなものがあってもいいのかもしれない。悪いものは悪いとか、いいものはいいみたいな、下町の何かあれみたいに、しつけみたいに、昔のじいちゃんとかばあちゃんの。そういう気もするんですけれどもね。

○班長　その辺の価値観の話は次の観光のところでもまた恐らく出てくると思うんです。じゃ、施策14についてはこれぐらいにしておきますか。よろしいですか。

○委員　１つだけお伺いしてもよろしいですか。こちらにあるさざんかカードというのが鳴り物入りで何年か前にやったんだと思うんですけれども、その後、利用率は上がってい

るのか下がっているのかというのはありますか。

○関係職員　協賛店は増えています。

○委員　協賛店は増えていらっしゃるんですか。

○関係職員　はい。1,000に近い形で。995ですか、今。なっています。あとは、利用しやすいように、今年からさざんか通信というタウン誌みたいなのをつくって、要は、カードだけじゃなくて、どこで使えてどういうような、これを持って街歩きをできるというような、そういうような仕掛けをやっています。

○委員　じゃ、衰退はしていないということ。

○関係職員　はい、発展しています。

○委員　発展で。はい、ありがとうございます。

○班長　それでは、14については以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

それじゃ、若干の入れかえがあると思いますので、19時50分に再開します。

（　休　　憩　）

○木村委員　それでは、おそろいでしょうか。それでは、関係職員の方の交代がございましたので、改めて自己紹介を行います。委員及び施策21から出席される職員の方には、お手元の名簿の順番に各自お名前をおっしゃっていただきたいと思います。それでは、こちら、委員側から自己紹介だけさせていただきます。３班の班長ということでやらせていただく、進行させていただきます木村と申します。よろしくお願いします。

○山本委員　山本でございます。よろしくお願いいたします。

○梅村委員　梅村です。よろしくお願いいたします。

○田中委員　田中真司と申します。よろしくお願いいたします。

○班長　それでは、部長、お願いします。

○地域振興部長　引き続きですけれども、地域振興部、鈴木でございます。よろしくお願いいたします。それぞれ自己紹介をどうぞ。

○文化観光課長　文化観光課長の小林でございます。本日はよろしくお願いをいたします。

○（仮称）江東区観光協会設立準備担当課長　観光協会設立準備担当課長の菊間です。よろしくお願いします。

○観光推進係長　文化観光課観光推進係長の臺と申します。よろしくお願いします。

○観光推進担当係長　同じく観光推進担当係長の岩崎でございます。よろしくお願いしま

す。

○班長　それでは、よろしくお願いします。おおむね先ほども大体予定どおりいきましたので、今から多分40分から45分ぐらいのおつき合いをいただくことになろうかと思います。それでは、施策21のご説明をお願いいたします。

○関係職員　では、私のほうからまず説明をさせていただきます。

現状でございますけれども、まずは江東区観光推進プランというのを23年３月に策定をしております。具体的な事業の課題の検討あるいはその解決のための取り組みをまとめたものでございますけれども、現在その23年の３月に策定したプランに沿いまして観光施策あるいは事業展開を行っているところでございますけれども、江東区内、ご存じのとおり多くの神社仏閣などの歴史的な観光遺産・資源、あるいは臨海部を中心とした大規模な娯楽施設などいろいろな観光資源に恵まれていると考えています。そうした観光地としての魅力を十分に備えているというふうに把握をしております。これに加えまして、今年に入って２月には若洲と中央防波堤の外側埋め立て処分場を結びます東京ゲートブリッジが開通をしております。また、５月には、隣接する墨田区ですけれども、東京スカイツリーが開業したところです。聞くところによりますと、スカイツリー、１カ月で581万の方がいらっしゃったということで、墨田区のみならず、東京の東部地域全体にとって観光客を呼び込む大きなチャンスだととらえております。

こうした機会をとらえて多くの観光客の方たちを本区に迎え入れること、そのことは、商店街をはじめとする地域経済の活性化に直結するということで、また一方、本区の魅力を伝えることは、区のすばらしさの再認識、あるいは地域への愛着の醸成につながると考えております。現在、区民協働で進めています文化観光ガイドの充実、あるいは江東区の地域特性を踏まえた舟運観光の展開などについては、民間事業者のアイデアも取り込んで官民協働でやっていくような検討、あるいは他区との連携の工夫を図るなどして観光推進プランに則って進めているところでございます。

次に、課題ですけれども、そうした中で、これは今までも言われていたことですけれども、観光客の受け入れ態勢、あるいは情報発信のあり方など、いわば戦略的あるいは体系的な取り組みがなされてきていなかったというのが現状としてございます。そのために、高いポテンシャルはあるんですけれども、観光資源を十分に生かせてこなかったということがありました。

それを受けまして、区全体をカバーする観光推進組織の設立ですとか東京スカイツリー

から歩ける範囲にあります亀戸地域の観光拠点づくり等々、また、水陸両用バスとか和船なども含めました舟運観光の活性化のベースとなります船着き場などの基盤整備、そういった具体的な課題があるところです。

それでは今後どうしていくかという方向性でございますけれども、観光推進プランの前期５カ年の行動計画で、全区的な観光推進組織の設立が上げられております。これにつきましては、昨年度、平成23年度から準備会組織を立ち上げておりまして、今年度中に、仮称ですけれども、江東区観光協会を設立するということで今準備を進めているところでございます。この検討協議会の中では、深川・亀戸両観光協会をはじめとして、商工会議所あるいは商店街連合会などの地域の団体の皆様に参加をいただいているというところでございます。今までの検討内容では、観光事業についての課題の調査分析を進めておりまして、新たな観光組織が一体的な、各団体の連携を持って機能するような検討を重ねているところでございます。

具体的に新しい観光協会が何をやるかということは現在検討中ですけれども、例えばフィルムコミッション事業など、その計画を２年前倒ししてこの観光協会で実施を考えております。それから、文化観光ガイドの充実ですとか水陸両用バスなどの周遊観光メニューの開発などを考えています。それから、亀戸のレトロ商店街のイベント支援ですとか、先ほど申し上げました亀戸４丁目の公有地の活用ということで、これは地域の皆さんが主体となって進めていただいているんですが、商店街活性化と観光の拠点としての、亀戸梅屋敷という名称でありますけれども、それも来年の３月には完成予定ということになっております。あと東京スカイツリーの関係につきましては、近隣５区との連携で観光ガイドブックを作成いたしております。また、この夏には東京都の交通局と協力して、都バス１日券を活用した区内周遊のガイドを発行する予定になっています。

いずれにしても、非常に恵まれた区内の地域資源を活用して江東区らしい観光のあり方を考えていくということで、その観光事業を進めていくことで地域の活性化、あるいは地域経済に効果が波及するような形で観光施策を進めていこうと考えております。

私からは以上であります。

○班長　ありがとうございます。それでは、よろしくお願いいたします。

○委員　ご説明ありがとうございました。

江東区では神社仏閣などの史跡や、今年の２月に東京ゲートブリッジが開通して、東京スカイツリーも、隣の区ですけれども開場したということで、こちらの江東区では観光客

の増加が見込まれるということで、すごく明るい展望だと思うんですけれども、この評価シートを読んでいく中で、観光地そのものを活性化させる事業といいますか、というのがちょっと読み取れなかったので、そちらを盛り込んでいればいいなと思いました。

○班長　どうですか。

○関係職員　観光地そのもの、例えば、ゲートブリッジというのはなかなか今、若洲の公園ですので、どっちかというとトイレとかそういったインフラのところをまだ今土木といろいろ相談しながら受け入れ態勢というものをちょっと考えているところですが、例えば今、スカイツリーから徒歩圏にもある亀戸ですけれども、亀戸梅屋敷といった、これは亀戸４丁目の公有地を活用した施設整備と地域活性化のソフトを今検討しているんですが、そういったもの、あるいはレトロ商店街が一応完成をして、そういったところの今ソフト活動をレトロ商店街の方たちが中心になっていろいろやってございます。ツリーが開業するちょうど前の週、５月19日と20日、青森県のむつ市さんがレトロ商店街と提携をして、小さいアンテナショップがあるんですが、そこを起点にしてむつの物産展というのをやりました。そこには非常にお客さんが集まってくださって、青森県の出身の方もたくさんＯＢということで来たりしてやっていますので、そういったところのにぎわいづくりというのはいろいろ、ハードだけじゃなくて、むしろソフトの力でやっていっているところがあります。

○委員　ソフトの面ということで、私実はまだ東京ゲートブリッジ行ったことないのでわからないんですけれども、今結構観光客が来ているというのをニュースで見たんですけれども、今後東京ゲートブリッジで何かお店をつくるという取り組みは考えていますか。

○関係職員　実は、あしたの新聞にもしかしたら出るかもしれませんが、東日本大震災で、福島の方々たくさん、今東雲とかに避難をされている方まだ1,300人ほどいらっしゃいますが、その方たちがゲートブリッジのちょうどたもとのところ、若洲公園の中で７月から11月ぐらいめどにお店を出していただくということで、これは、一つには観光地のそういった対策もやり、なおかつ震災の方々の元気を、活力を出していこうということで被災者支援の担当のほうで進めているんですが、そういったものを趣旨として入れながら、来た方たちにぜひ買っていただいたりもしたいなと思っています。

　あとは、トイレとか、なかなかこれも、本当に前々ということで整備されていればいいんですが、なかなかインフラを整備するというのは、ある意味リスクも伴うという部分で、状況を見ながらというところですが、来た方が、ライトアップも途中から始まりましたの

で、そういったところで、「また来たいね」というような形で来れるような体制を、駐車場とかについて関係の部局と相談しながら今検討しているところでございます。

○委員　わかりました。ありがとうございました。

○班長　どうぞ。

○委員　私から質問させていただきたいんですが、まず区の観光地の目玉３つ挙げていただくとしたら、区としてはどことどことどこを挙げられるんですか。

○関係職員　１つには、やっぱり深川、亀戸ということで、これは歴史的観光資源と考えてございますが、富岡八幡、深川不動のエリアが１つ、それと、やはり北の玄関口で亀戸の天神さん、香取神社、そういった江戸時代からの近郊遊楽地というようなところが２つ、それともう一つは、これは難しいところですが、ゲートブリッジなのか、あるいは既存の臨海部の大規模の娯楽施設がたくさんございますので、あのエリア一帯ということで考えてございます。

○委員　今ＪＲ、それから私鉄、地下鉄と江東区の場合横にいろいろありますけれども、一番乗降客が多いところはどこかご認識されていますか。

○関係職員　乗降客の多いところは亀戸と東陽町、それと豊洲。

○委員　豊洲もですか。

○関係職員　はい。ベストファイブ、ちょっと私、すみません。新木場も実は結節が多いので新木場も入って、あと１カ所。ただ、この中で特筆なのは、観光地じゃないんですが、東陽町は乗りかえがないのに10万人を超えていると。多い年でたしか12万という数字があるんですが、乗りかえがない駅で12万もの乗降客があるのは、東陽町が、多分都内でも一番です。

○委員　それは、東陽町の場合はどちらかというと観光という感じではないのかも。ビジネスの客かもしれませんけれども。そうしますと、深川と亀戸という神社仏閣のところがやはりどうしても柱なのか、臨海部のほうの商業施設とビーナスフォートと。ビッグサイトは観光地ではないという認識ですか。

○関係職員　これは観光庁も、これからの観光の中で何が大事かというと、今MICEと言っております。要はミーティングなりコンベンションなりインセンティブな旅行ですとか、あとはイベント、こういったものが、いわゆる団体旅行というのが今廃れてきた中で、やはり集客を見込めるのはこういった部分の観光が必要なんだと。これに加えて、あとはスポーツツーリズムというようなものも出てくると思います。最たるものはオリンピックと

かワールドカップがございますが、そういったものが今大事だということで、実はこれは観光庁も東京都も、そういった部分では臨海部のほうにそういったポテンシャルがありますので、そういったものをやっていきましょうという機運が非常に強うございます。

○委員　こちらのシートを見ますと、スカイツリーという表現が非常に多く出てくるんですけれども、やっぱり南北交通がどうしても課題で、東京都のほうにいろいろ働きかけはしているとは思うんですが、なかなか実現しませんし、私も臨海部で働いてはいるんですが、臨海部に多くの方々が来るんですけれども、その方々は結果ゆりかもめだったりりんかい線のあたりで結局新橋のほうへ行ってしまったりとか、非常にもったいないなというのは思っていますので、何かその辺の施策を、どの部署になるかわかりませんけれども、恐らく働きかけはしているんだと思うんですが、やっぱり臨海部からスカイツリーへ行く間の深川地区あるいは亀戸地区を経由した縦方向を早急に整備するようなことなんかに取り組まれてはいかがかなというのは１つあります。

それで、区内全域に、さっき議論をしたんですけれども、いろんな見るところがあって、ちょっとぼやけてしまっている感があるので、もう少し、さっき私が冒頭に申し上げた目玉３つでも５つでもいいんですけれども、これを見たときに、深川のお祭りは年中やっているわけじゃないし、角乗って、最近私も見ていないですけれども。花火は８月１日しかやらないし、何かいつも行ける、要するに我々区民がほかから来た人に「ここ行こうよ」という、その目玉をもう少し前面に押し出せるような何かプランがあったらいいなとちょっと思っていますけれども、その辺についてはいかがですか。

○関係職員　おっしゃるとおり、まず最初の南北交通のところは、これは土木の交通対策課が８号線の延伸ということで、実は私、前土木にいて、ＬＲＴの検討、路面電車の亀戸新木場の計画なんかもあったんですが、そういうのにも携わっていたんですが、なかなか、やっぱり南北交通については需要とのバランスで、今豊洲なんていうと需要がすごくあって、これは非常にチャンスでもあると思います。ただ、沿線需要ですとかいろんな部分の影響とかがあるとというところですが、ただ、これも、東京都のほうも最大限の努力をするということを表明してくださっているので、区としてはそういった部分で、1,200億円かかる、住吉と豊洲を結ぶのはそういったことになるんですけれども、これは一致団結して非常に強力に押しています。そういった部分があると、いわゆる臨海部と既存の市街地のアクセスの時間も軽減されますし、費用も軽減されますので、そういったことは区全体として進めているところです。

１つ、スカイツリーからちょっとどういった工夫というと、先ほどちょっと説明の中にもございましたが、８月に都バス１日券を活用したガイドブックというのをお出しします。そんな大仰なものではないんですが、16ページのもので、これについては、既存の都バスの交通網の中を使って、スカイツリーから臨海部、あるいはスカイツリーから現代美術館、日本科学未来館、あとはダイバーシティ、ガンダムがある、ああいったところを通るコース。それと、亀戸を通って砂町銀座を通って新木場通ってゲートブリッジに行ったり、これはメリットというのは、１日券というのは500円で途中で何回乗ってもよろしいんです、バスは。

○委員　乗り降り自由。

○関係職員　はい。そうすると、亀戸でおりて、見てから今度駅まで行って、今度砂銀のほうに行って寄って、またゲートブリッジまで行ってゆっくりというようなことを何回もできますし、臨海部に行く途中でも何回も見どころのところを載せて、そういったところで回っていただきたい。

もう一つには、区で今力を入れているのは観光ガイド事業です。これは、ボランティアの方々に、今80名ほどいらっしゃるんですが、参加をしてもらって、要はまち歩きをするんだと。要は、例えばスカイツリーに来て、臨海部のどこか施設に来ていただくと。ところが、例えばバスで来ちゃうと、通過するところは全く何も残らないし、区にとっても、深川を通っても、結局臨海部に行っちゃうと富岡八幡も何も見ないで帰られることになる。そうなると区としてはせっかく見ていただきたいところをすっ飛ばして見ていただくことになるので、このバスのガイドで何回もおりていただいて、滞留時間を長くとっていただいて江東区のいいところをぜひ見ていただきたいんだということでそういったアピールをする予定でございます。ですので、そういった方がどんどん来て、あるいは降りてどこかへ寄って遊んでまた乗ってもらうというようなことをやっていただきたいなということで、あえて、全く新たなことをやるということじゃなくて、既存の都バス交通網を活用していただいて見ていただきたいと、そのように今計画してございます。

○委員　ガイド数は今80名とおっしゃったのは、この指標の3,500とはまた違う方々になるんですか。

○関係職員　これは、今申し上げたのは観光ガイドの案内者数じゃなくてガイドするほうの方々です。

○委員　これは案内を受ける側の方ですか。

○関係職員　そうです。23年度3,532名の方をご案内したということです。

○委員　もう目標達成しちゃっているんですね。

○関係職員　ええ。ただ、実は24年度、４月、５月でもう既に1,200人ぐらいの方をご案内していますので、非常に力を入れただけ、近県から来てくださっています。関東近県あるいは東北のところから聞きつけて、無料でガイドをしていますので、そういった方々が非常にたくさん来てくださっています。

○委員　先ほどMICEのお話もありましたが、最近中国人と、あと韓国人もそうだと思うんですけれども、その辺についてはどのような取り組みをされていますか。

○関係職員　これは、インバウンド、外国人観光客の方々、震災前までは60万、70万と毎月来ていただいています。それで、メンバーとしては、１番は韓国、中国、それと台湾か香港ということで、東アジアの方が外国人観光客の６割から７割占めています。それでなおかつ、その方たちが東京でどこへ行きたいかというと、１番が臨海部でした。ですので、非常に影響あるんですが、震災の翌月、４月には30万を割ってしまったんです、やはり震災の後で不安があるということで。今大体戻ってきて、先月の５月も66万ほどの外国人観光客の方が来ていますが、ただ、韓国が２割減、これは変わりません。なぜかというと、放射能とかそういったことの懸念が韓国の方は結構あるのと、あとはやっぱり円高。震災の部分と、プラス円高が影響があると。ですから、韓国、香港、それとフランス、ドイツの方々がちょっと伸び悩みであるというふうな報告受けています。

○委員　要は、区外から来ていただいて、目的としてはやっぱりお金を落としていただきたいというのがあると思うんですが、そういった意味ではこの観光推進プランの中国語版はありますか。

○関係職員　いや、ないです。

○委員　つくる予定はいかがですか。あるいは韓国語の。

○関係職員　このプランについて自体はつくる予定はございません。インターネットのPDFなのでそれを翻訳できないんですが、ただ、これは東京都さんが特にいろいろ組んでやって、そういった各国語版つくってくださっているのと、最近観光庁ともよくご相談していますので、そういった部分では、全区域じゃなくても、ポイントはご紹介したいなと。あと、先だって、実はIMF経済会議の総会が10月に日本であるということで打診がありました。江東区でそういったアフターコンベンションというか、会議の後にご案内、あるいは家族で来られた方が回りたいと。そういうときには、深川江戸資料館が、英語のガイドの方な

んかもいらっしゃるので、手挙げて、ぜひ来ていただきたいというようなことのＰＲはしております。

○委員　ちょっとその語学のところはご検討いただいたほうがいいんじゃないかというのをご提案を差し上げておきます。以上です。

○委員　これはどこに置いてあって、どういうふうに使っていくものなんですか。

○関係職員　こちらは、23年の３月に策定したものですけれども、観光推進プランということですので、一般の方々全員に見ていただきたいというパンフレットでは特にはないです。

○委員　だから、どこに置いてあって、だれが見るんですか。

○関係職員　例えば、一般に見ることができるところでは図書館とかそういったところにもお配りしていますのと……。

○委員　使う方々、商工会とかそういう観光関連の方々ですね。

○関係職員　そういったところにも、ええ、関係のところにはお送りしてございます。

○委員　送っている。

○関係職員　はい。

○委員　これを、プランを見て、それでその方々がなるほどといって動いている実績というのはありますか。

○関係職員　今実は全区的な観光協会の設立準備をやっておりまして、例えば商工会議所ですとか商店街連合会、あるいは観光関係の事業者も含めて20団体ほどの協議会を設立してございます。そういった中で、この中身を踏まえた上でいろんな検討をしているところでございます。

○委員　なるほど。まず形つくっちゃってからやることを考えているんですね。

○関係職員　これ、理念的な部分と、あとは……。

○委員　いや、ごめんなさい、商工会の件ね……。商工会じゃない、観光協会の件ですね。

○関係職員　はい、そうです。

○委員　形つくっちゃってから具体的にこれをもとに何をどうしていくかというふうな考えですね。

○関係職員　そうですね。方向性的なものはこの中で言っていますが、具体はまたそういったところで展開していこうと思っています。

○委員　わかりました。すみません。私、区民ではないので、ちょっとお伺いしたいんで

すが、深川八幡って何が楽しいんですか。

○関係職員　富岡八幡様ですね。

○委員　富岡八幡とか亀戸……。

○関係職員　８月12日に水掛け祭りってありますけれども、これは54基のみこしが出て、平泉からも１基出ます。平泉の町長さん、私も先だて会いましたけれども、250人担ぎ手が来ます、平泉から。そういった、みこしが54基練り歩くんですが、普通の、例えば有名な三社さんですとかは、ちょっとある一定の区間、区域で担ぐんですが、これは練り歩くという形で、中央区の新川まで渡って永代橋を渡って戻ってくるというようなことで、その間中……。

○委員　すみません、それはその日じゃないとだめですよね。

○関係職員　そうです、その日です。それは１つ祭りがあって、これ震災で１年ずらしたんですが。普通のところは横綱碑ですとか大関の碑みたいなのがある、あるいはみこしが飾ってあるといった部分もあって、いろんな部分で、干鰯問屋の記念碑みたいなのもありますし、あとは伊能忠敬の像などもあって、そういったものが見られる。

○委員　ごめんなさい、私よその人間なので。何があるよというのはわかるんだけれども、じゃ、あるよって、見に行くというふうになるかどうかというと、ホームページちょっと調べてみたんです、いろいろ。観光客の気分になりながら。本当に知らないので調べてみたんですけれども、何か「行こうかな」という気にならなかったんです。「いやー、だったら家の近所でおいしいものを食べておこうかな」みたいな世界になっちゃったんですけれども、ホームページも結構見づらかったというか、江東区からまず入ってみたんです。とりあえず江東区のホームページから入ってみたんですけれども、見つからなくて、四角の枠のところにはなかったです。

観光関係なくて、観光協会のところに行ってみて、何があるよかにがあるよと。じゃ、地図、マップはどうかなといったら、すごく広域で、どこに行っていいか、「あ、こっちのほうが楽しそうじゃん」といったのは品川区だったりするんです。１枚にぺろっとあったんですけれども、そこに行きついて、それをじっと見ていたんですけれども、観光客は、物を置いておいたり、これがあるよといったら来てくれるのかなとちょっと思ったんです。だとしたら人集めで、こんなに楽しいよとか、ぜひ来てみてよというだけの何か力強いアピールみたいなものがちょっと感じられなくて、「これはあるよ、これあるよ、こんなことをやってるよ」というものだけだったんです。スカイツリーには勝てないでしょうね、

きっと。スカイツリーに来た人たちがここに来るかというと、来るかもしれないんですけれども、その人たちを見越しているんじゃなくて、区のＰＲというか、私たちの売りみたいなものが、前面に押し出されているような何かがないと説得力がないかもしれないです。

観光客の気持ちで見ていたらそんな気になったので、ちょっとそれもご参考までにということなんですけれども、あと、これを使ってどのようにしていくのかなというのはこれからなのかもしれないですけれども、多分同時並行していくべきことなのかもしれないですし。結構お金かかっているじゃないですか、これはきっと。相当。

あとは、ものをつくっていくということも大事なのかもしれないですけれども、「大事にするもの何ですか」みたいな。観光として大事にするものは何ですかというものと、あと考え方みたいなものもどこかにあると「ちょっと行ってみようかな」みたいなのが出てくるのかもしれないですけれども。これも、さらりと、本当に何かお役所の文章だなというのがあって、「はいはいはい」という感じの、濃淡のないというか、さびがない感じがして。これはプランだからそれでいいと思うんです。ただ、観光マップとか何かのときには、書いてあるだけじゃなくて、何かあったほうがいいのかなと思いながら、だとしたら、さびとか売りとかというものを余り考えないで、だらりとやっているのかなという気がしたので、その辺のところは人集めのための工夫が必要なのかもしれないなと。

これ見ていたら私よそへ行っちゃいそうになったんです。江東マップと書いてあるんだけれども、区じゃなく、違うところもいっぱい入っているよという感じだったんですけれども、ホームページとか観光マップやっていて、江東のマップというのだけじゃなくて。すみません、それは私の感じ方なので、感想ですけれども。すみません。

○関係職員　今、委員からお話しいただいたことは、ちょっとかかわったとこもお話ししましたが、例えばスカイツリーからどういった方が呼び込めるかというのは、私どもとしては江東区らしさを見ていただきたいということで……。

○委員　だから、そのらしさって何ですか。

○関係職員　らしさというのは、先ほど申し上げた、例えば、この観光推進プランの一番前に書いてございますけれども、観光というのはただ経済的なもののプラスだけじゃなくて、江東区は水彩都市ですから、水辺を使った舟運観光ですとかそういったものも一つありますし、あとは、やはりボランティアの方だと特に強いんですけれども、江東区を見ていただきたいと。私たちが好きな江東区を見ていただきたいということでボランティアをやってガイドの方たち動いていただいているので、そういった部分で区のすばらしさを再

認識し、地域に誇りと愛着を持つことを進めたいと思っております。なかなかそれが伝わらなかったというのは宣伝の仕方が悪かった部分はあるんですが、そういった気持ちは、例えば今ガイド、力入れてこういったガイド、これは１万2,000部この前つくっていろいろお配りしているんですが……。

○委員　それはどこに。

○関係職員　これは100カ所ぐらい、ホテルとかそういったところも含めて。ホテルもそうですし、区の施設も含めていろんなところ100カ所ぐらい送り、駅などもですが。そういった中で、やはりガイドの方がおもてなしの心を持っていろんな、この前「相撲ゆかりの深川散歩」というのをやったんですけれども、北の海部屋へ行って、実際、名古屋部屋で皆さんいなかったんですが、土俵まで、中まで入って見学させていただいたり、そういったところで、要は、ちょっと見にですけれども、そういった江東区ならではのものをＰＲしていきたいなと。

○委員　これはだれがつくったんですか。

○関係職員　これは区の。

○委員　どういう人たちが。区の課の方々。

○関係職員　我々です。

○委員　課の方がつくられた。

○関係職員　それは会社にお願いして相談しながらですけれども。

○委員　業者さんに印刷レイアウトとか、内容を検討しながらつくられたと。

○関係職員　はい。それはいろいろ検討しながらですが。

○委員　これにはボランティアさんとかはかかわっていないんですね。

○関係職員　いや、ボランティアさんにも見ていただいたり意見をいただいたりしてやっていますが。その中で実際回って歩くのはボランティアの方々が主になってやっていますから。私どもも、ボランティアの方がご案内しておもしろくないものはおもしろくないだろうなみたいなところで、いろいろボランティアの方、きょうも実は会議をやっているんです。

○委員　ボランティアさんお願いしようと思ったらどこにお願いすればいいんですか。

○関係職員　私どもです、文化観光課の推進係で。こちらにありますので、ぜひ一回お申し込みいただいて。

○委員　それをちょっと見逃していますね、確かに。じっくり見ていないです。

○関係職員　すみません。プッシュするところをもうちょっと。この前も、「相撲のゆかりの地」は観光庁の方、室長さんと担当の方が来て一緒に見てくださって、非常におもしろかったというご評価もいただいています。

○委員　わかりました。後でじっくり見させていただきます。すみません。

○関係職員　じゃ、後で皆さん。

○委員　観光協会なんですけれども、大同合併という形なんですか。

○関係職員　いえ。

○委員　支部という形では残してないんですか。それとも、それぞれ地区別の固有の観光協会というのはあるんでしょう。

○関係職員　深川と亀戸に昔からの観光協会がございます。

○委員　それと今回江東区全区の観光協会というのはどういう関係になるんですか。

○関係職員　江東区の、（仮称）江東区観光協会というふうにしてございますが、江東区全区域を見るということでやって、この観光協会と例えば商工会議所とかとも連携をとって観光のことを進めていきたいということなので、中間支援組織でプラットホーム型、それぞれの団体がご相談したり連携したりするような形で考えてございます。ただ、なかなか中間支援組織みたいな言い方って、非常に抽象的な部分もあるんですが。深川と亀戸の観光協会も、例えば深川の桜祭りをやったりするときにはこの江東区観光協会とタイアップをしながら動いていくと。実は深川の観光協会、亀戸の観光協会も商店街イコール観光協会さんのような形態で今まで来ていましたので、そこに観光協会の事務の方がたくさんいらして動いているということではないので、そういった部分は新しい観光協会のほうでいろいろ観光事業者とタイアップしたりしながら動きができるので、そういった方とも連携しながら動いていくというふうに考えています。

○委員　観光協会つくったあかつきには、観光協会の財源はどうなるんですか。

○関係職員　当初、区のほうの私どもでも観光事業委託といったことで委託事業をお願いしたいと思っていますが、基本的には観光協会の会費です。会費でもってやっていくということに。あるいは収益を上げていくと。今考えている中、設立協議会の中の話の中では、実は形態としては一般社団法人が望ましいだろうというところまで。

○委員　今観光協会は大体そうなってきていますから。

○関係職員　ええ。そういったこともあるので、その中で、将来的には旅行業も取得して、そういった自立のできる形を目指していくというふうに考えています。

○委員　ものすごく違和感があるのは、なぜ区役所に設立準備担当があるんですか。

○関係職員　これについては、指導の部分ではやはりいろいろな、例えばこれが地方に行くと商工会議所さんがイコールでやっていたりもありますけれども、なかなかちょっと今の区の状況などをいろいろ見ると、今文化観光課があるので、その指導まではこちらのほうでセッティングをして、いろんな事業者、区の団体を集めてやっていきたいなと思います。

○委員　いわゆる官製団体になってしまうという懸念はないんですか。

○関係職員　それは、当初の動き出しのところまではそういった推進のための押し出すための力が必要だと思いますが、あくまでも自立をして自分で稼いで動いていくような団体を目指しているというふうに考えています。

○委員　目指しているというのは、目指しているんだと思いますけれども、今どきだから。つくりたくてつくりたくてしようがなくて、狂ったようにつくりたいと思っている人ってちゃんといるんですか、区役所以外で。

○関係職員　ある意味先ほど申し上げた深川、亀戸観光協会も一生懸命非常にやっていただいていますが、いわゆる社団法人でもなくて任意団体ですので、何かやるときも手が足りないと。だから、そういった部分で言うと、深川とか亀戸、地元にお客さん来てもらいたいけれども、そのためにバランスよく動いてくれる観光協会のやっぱり支援のようなものは欲しいというふうに言っています。

○委員　いや、それはあったらいいなと思っている一生懸命な人はいると思いますよ。つくりたいと思っている人いるんですか、変な質問なんですけど。

○関係職員　私自身つくりたいなと思っていますけれども。

○委員　いや、区役所じゃなくて。

○関係職員　区役所以外ですか。

○委員　区役所がつくりたいと思ってつくるものというのは官製団体ですよ。

○関係職員　はい。１つには、あと商店街です。亀戸を例にとってもなかなか商店街の疲弊が多くて厳しい段階だと。こうなると、内需の買い物客だけじゃなくて外需としての観光のお客さんが来ないと、もうこのままじゃ商店街もつぶれちゃうよというような懸念もあります。ですから、こういった機会にやはり外需であるそういった観光客の方が来て楽しんで買い物してまた来てくれるというような、そういったところまで持っていければ助かるので、商店街の皆さんはぜひ観光を進めてほしいと。

それと、商工会議所の方なども話していると、やはりいろんな、観光とはあまり関係ない事業者も商工会議所はもちろん入っていらっしゃいますけれども、やはり区全体の中、飲食とかそういう物販のところだけじゃなくて、活性化を求めるためには観光協会が、先ほど言ったように、外国人観光客も来たりすると非常に影響大きいので、そういった商業のコンベンションのところでもビジネスチャンスが生まれるので、ぜひ全域的な観光協会をつくってほしいというような要望は聞いています。

○委員　一般の区民の方から、この町の利用者で一番多いのは一般の区民でしょう。

○関係職員　はい。

○委員　一般の区民の方から、もっと楽しい町にしてくれとかもっとこの町の中で楽しめるようにしてくれとかいうような要望ってあるんですか。

○関係職員　区民の方、永住希望者が９割ぐらいいらっしゃって、非常に江東区は居心地がいいというようなご希望も聞きますけれども、最近聞くのは、川がきれいになって親しめるようになったので川で遊びたいという、そういうご希望を聞きます。それもあってカヌーですとかそういったのが今はやったり、こっちのほうでもいろいろプッシュして、川から見る風景なり観光というのを今たくさん検討したり動かしているところですが。

○委員　ただ、区民の方が川で遊びたいというご要望があって、なるほどなと思って対応しようと思ったら、地域振興部の文化観光課が対応するんですか。

○関係職員　土木と当然。

○委員　それはもちろん。

○関係職員　そうですね。我々としては、ふだんから遊べる部分というところと、この中でも観光の定義が、日常の部分の中でも商店街などは観光になり得るというスタンスでちょっと扱っているんですが、そういった部分から考えると、観光の中では、私どもが使うことはちょっと疑問には特に思っていないです。

○委員　僕も疑問には思わないです。そのほうがいいと思うんですけれども、目的は何ですか、観光振興の。

○関係職員　観光振興全体の目的。

○委員　施策21の目的。

○関係職員　目的というと、これは、地域資源を活用した観光振興というふうにあるように、魅力が十分に発信されて、たくさんの方が来てもらってにぎわっていくと。区民のそういったおもてなしの気持ちが相手に伝わってやっぱりリピーターとして来てくださると

いうことですよね。

○委員　それは現象ですよね。その現象をもって何を獲得しようとしているんですか。

○関係職員　本当のねらいは、やはり区民の方に江東区のすばらしさというのを再認識していただきたい。あわせ、それを通じていわゆる江東区民としての誇りといいますか、そうしたものを持っていただきたいなというのが実はあります。というのは、多くのいわゆる区外からの方が来るということは、なぜ江東区これだけの方が来るんだろう、そうした魅力が江東区にあるんだということにまず気づいていただくということが大事なわけで、それを通じて我々としては江東区民としての誇りというか、そうしたものをしっかり持っていただきたい。あわせて江東区のこれまではぐくんできた文化的なもの、そうしたものについても正しく評価をしていただきたい。定住志向は非常に江東区高いですけれども、これはやっぱり数字的な、非常に危うい部分もあるわけで、例えばお隣の区でもっとすばらしいものがあればそちらへ行ってしまうかもしれませんし、そうした、江東区にないものができてしまえば定住の数字というのはやはり大きく変わり得るだろうと思っています。ですから、お隣にそうしたすばらしいものが仮にできたとしても、いや、江東区にはもっとこういったすばらしいものがあるんだということをしっかりと認識させていくことを我々はこの観光事業についてやっていく必要があるだろうと考えています。

○委員　大変納得のいくお答えをありがとうございます。今、僕、おっしゃったことはすごく素敵な答えだと思うし、僕は観光は、その精神でないと観光なんてうまくいきっこないと確信をしていますので、今おっしゃったとおり、大正解だと思うんです。という目で見たときに、いかにもお客さん目線になってしまっていて、やっていらっしゃることが。言い過ぎかな。下手なお客さん目線になってしまっていて、よその人に喜んでもらうということばかり考えているようにしか見えないんですよ、やっていることが。というのは、例えば神社仏閣の史跡というんですけれども、これ史跡にしてしまっているから。史跡にしてしまっていること自体、もういわば誇りも愛着もない状態になっていませんか。

○関係職員　いや、そう言われると私、実は文化観光課の中には文化財係というのがあって、昭和55年から登録文化財制度を始めて、文化財審議会も始めて1,055件の登録文化財をつくっています。その文化財を守るための協力推進員制度も長くやっていて、四十何名の方が今やっていますが、文化財の保護推進のための講座もずっと続けて、その中で区民がはぐくむ区民の文化財大事にしていこう。この前の震災でも屋外の登録文化財576件が震災に遭ったんです。その中で調査を全員でやったんです。うちの職員も含めて調査を全員や

って、保持者の方に尋ねて、その中、８％ぐらいの被害がありました。そういったものについてじゃどうやっていくかというようなことを大事にやっています。だから私も、文化観光課の中に観光推進係と文化財係あるのが非常にうれしいんです。それを、そういった文化財を大事にする気持ちと観光客の方をお迎えする部分というのは、区を大事にして、それを見ていただきたいというところがあるので、この表の書き方が悪かったとすればちょっとそれは私の力のなさですけれども、気持ちとしてはこれは大事にはぐくんでいくところを見ていただきたいと思います。

○委員　僕が言っているのは、文化財扱いしていること自体に問題があるんじゃないかと。神社とか仏閣というのは信仰の対象でしょう。江東区民が区内に存在する神社仏閣に対する信仰心を持って、日常の中に信仰の対象として心の中にすみ続けているという状態をつくることに努力しなければ、おっしゃったような世界にはならないんじゃないですか。歴史的に大事なものだからとか仏として大事だから守るという話とは意味が違うと思うんです。

信仰の対象でなくなったものは博物館に入るわけです。信仰の対象であるものは博物館に入らないんです。イメージしていただいたらわかるんですけれども、博物館に仏像がありますよね。我々、寺で仏像を見たらこうやって見るんです。ところが、博物館でこうやって見ている人見かけたことありますか。ないでしょう。博物館では後ろ手でこうやってみるんです。ということは、信仰の対象でなくなったものが博物館に入っているんです。だから、文化財として守るということの意義に異論はないんですけれども、文化財にしない努力が必要なんじゃないかということなんです。文化財にしない努力を観光という文脈でやっていることに先ほどおっしゃったようなことが実現するストーリー、道筋があるような気がしてならないので、お相撲のこととかも、お相撲の応援をすることが広い意味で観光ということの一番基礎的なものだから、江東区民全員がお相撲さん好きで、熱狂的にお相撲の応援しているという町だったらお相撲の町になって、結果的に観光客は幾らだって来るし、結果的にお金落としていくから、外から来る人のお客さん目線のことなんて正直言って一切やらなくていい。

もちろんそれは商売としてやる部分は商売としてやる部分で、商いとしてやる部分というのは、MICEという世界は商いとしてやって、ビジネスとして成功すればいい。集客ビジネスとして成功させる部分は、それはそれであっていいんですが、それとは違うと思うんです。そこら辺が、せっかく文化観光課になっているから、今熱く語られたように、むし

ろそこを生かしたことがされていてほしいんだけれども、そういう目で徹底的に見ると、書いてあるものが、何か江東区いろいろあるからいらっしゃいというふうにしか見えないんです。という意見に対してはどうですか。いかがですか。

○関係職員　厳しいご意見ですが、確かにおっしゃるのは、私もお祭りも参加して楽しんでいるほうですから、そういうことを言うと、確かに委員おっしゃるように、自分たちが楽しかったり自分たちの信仰心なり、自分たちが相撲が好きであれば、本当にそれに引きずり込まれて、いらっしゃって楽しめる形ってできると思います。私も今まで行った観光地というのはある意味そういった部分が出ているところ、よそから行ってもそういったのが黙っていても伝わるようなところだとおもしろかったなと。楽しかったなと。

○委員　ねぶたなんかも結局そういうことなんですよね。

○関係職員　そうですね。

○委員　ねぶた、よさこいというのはそうなっているから、よその人来てくださいなんて言うつもりなくたって来ちゃうんです。

最後に、私のほうからですが、結局のところ、成果の目標に対して成果は上がっていると考えていらっしゃいますか。僕、それを書かなければいけない。この数字を見てもわからないんです。この数字のボリュームが果たして大きいのか小さいのか僕にはわからないので。価値観がわからないですから。

○関係職員　私としては、76番、観光ガイドの案内者数というところでは、区民協働の形で進めているところで、非常に今反応もいいので、ここのところは非常にうれしいと思っていますし、これから江東区ならではの部分を強化するんであればこういったところが成果と考えています。

○委員　それは一貫性があると感じました。先ほどおっしゃっている、熱狂していらっしゃるお立場としては、お客さんが何人来たとかということ以上に観光ガイドが大きく活躍しているという状況を評価されると。

○関係職員　はい。

○関係職員　観光ガイドの人たちは本当に自分たちの住んでいるところが大好きなんです。だからそういう人たちが、いわば区民がみんな観光ガイドになれるような状況になればそういった、先ほどから話出ているような理想に達していくのかなと思っていますけれども。

○委員　まさに今、委員がおっしゃったそのとおりですよね、観光の方って。でも、これ、数字見るとちょっとねと。さっきありましたけれども、来場者が下がっていたりとか、ホ

ームページのアクセス、疲れるからあまりしないんじゃないですか。

○委員　さっきの中小企業のあたり、ＩＴスキルが低いのは区役所ではないかというううわさが。ＩＴ講習、区役所の職員が徹底的に受けたほうがいいような気も。相当嫌み言いましたけれども。すみません。わかりました。私はそんなところで。

ちなみに『広報会議』という雑誌があるんですけれども、その７月号がシティープロモーションの特集なんです。ぜひごらんください。

○関係職員　拝見します。

○委員　先生書いていらっしゃるんですか。

○委員　私も書いています。

○委員　やっぱり。

○委員　シティープロモーションの、『広報会議』というのは宣伝会議という会社の雑誌ですが、今までは企業広報のための雑誌としてやっていたんですけれども、『広報会議』のビジネス戦略としても、やっぱりシティーセールとか、要するに官公庁の人たちが買ってくれるような雑誌にしていきたいと思うほどに官公庁における広報ニーズというのが膨らんできているというご認識なんです。なのでだんだん官公庁向けの広報マガジン化してきていますので、結構注目していい雑誌だと思います。

いかがですか、皆さん。

○委員　大丈夫です。

○委員　観光地じゃないのであれなんですけれども。でも、非常に今、その思いというのは、相当やっぱり江東区好きなんだなと。私も負けないぐらい好きなので、いくらでも議論したいところはありますが、どうしても今外国人、さっきの話に戻っちゃうんですけれども、その人たちに神社仏閣ってどうなのという感じするんですけれども。先生もおっしゃったように、中国人が富岡八幡宮へ行ってこんなことするのかとか、そこはわかりません。僕はビーナスフォートへ行ってお金を、時計買ったり洋服買ったりしているのが現状なんだろうなと思う。今、おっしゃった誇りだとか、なかなか評価できないものを目指されているのか。そうはいっても本音ではお金を落としていただきたいのか。経済効果はもちろんあるんですよね、おっしゃっていなかったけれども。

○関係職員　あります。例えばビッグサイトでモーターショーが84万人来ました。この観光プランの中で、例えば１日、日帰りでも5,000円、6,000円のお金が落ちるということで、それだけ単純計算すると40億落ちているわけです。皆さん江東区に泊まるわけじゃなくて

外だったりするので一概には言えないんですけれども、そういった経済効果なりビジネスチャンスに企業の方が参加できるかとかいうこともやっぱり非常に期待するところですので。

○委員　どうしてももったいないと思うのは、もっとあそこに来る人たちを内陸部に僕は引っ張っていきたいな。スカイツリーに来る人を引っ張ってくるんじゃなくて、江東区に来た人が「じゃついでにスカイツリーも行ってみよう」と、そっちのほうを先に僕は考えたいし、何かそういうふうに。だから、目玉ってさっき最初に聞いたのは、深川だ、亀戸だ、確かにそれでいいんですけれども、そっちへ来た人が「じゃついでにスカイツリーも」というふうに逆の発想をしてほしいなと思います。

○班長　よろしいですか。それでは、引き続き熱狂してください。ありがとうございました。お疲れさまでした。

○関係職員　失礼いたしました。よろしくお願いします。

○班長　それでは、時間にはなっておりませんが、予定の施策21のほうも終わりましたので、これで関係職員の方はご退席いただいて結構です。ありがとうございました。

それでは、事務局のほうから何か別にございますか。

○事務局　どうもありがとうございました。すみません、事務局から２点ご連絡を申し上げたいと存じます。まず１点は外部評価シートでございます。本日の内容を外部評価シートにお書きいただきまして、恐れ入りますけれども、７月18日の水曜日までに事務局のほうにメールで提出をしていただきたいと思います。データにつきましてはもうお送りしてありますので、そちらのほうにお書きいただきたいということでございます。

あともう一点は謝礼金の関係でございますけれども、席上に配付しております謝礼金の請求書、住所、氏名をご確認いただきまして印鑑を押印していただきたいと存じます。押印いただきましたらそのまま席上に置いていただければと思います。事務局からは以上でございます。

○班長　ありがとうございます。

それでは、皆さん頑張って期限内にご担当のほうまでシートをお送りください。

以上で第２回江東区外部評価委員会第３班のヒアリング第１回目を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

午後８時５５分　閉会

了